

## エヌビディア(NVDA)

1Q 減収増益。AI技術発展の影の立役者として不動の地位を保った成長が期待される。

### ナスダック | 半導体素子 | 業績フォロー

BLOOMBERG NVDA:US | REUTERS NVDA.OQ

- 2024/1月期1Q(2-4月)は売上高が前年同期で13%減も、純利益は同26.3%増加の減収増益。
- 自社APIダウンロード回数4千万突破、EUVリソグラフィー処理自動化システムを発表するなど、需要急増と競争力の向上が示唆される。
- 自社GPUに限定のAPI提供、自社公開の開発ライブラリやAIモデル等のリソースから、AI開発の陰の立役者として不動の地位を確立。

#### What is the news?

5/23発表の2024/1月期1Q(2-4月)業績では、売上高が前年同期比13%減の71.9億USD、粗利率は同0.9ポイント低下の64.6%、営業利益は同14.6%増の21.4億USD、純利益が同26.3%増の20.43億USDの減収増益となった。一方、1Q前に発表の23年1月期通期では売上高は前年比横ばいの270億ドル、営業利益は同58%減の42.2億USDの減収減益であった。

24年1Qにおける売上を製品種目別でみると、①データセンターGPUでは前年同期比14.2%の42.8億USD、②ゲーミング用GPUは同38.1%減の22.4億USD、③プロ向け画像処理用製品では同52.6%減の2.9億USD、④車載・自動車産業向け製品では114.5%増の2.9億USDとなった。

TSMC、ASML、Synopsysとの4年間の共同開発を経て、EUV露光技術によるリソグラフィー処理自動化システムであるcuLithoを発表。同技術によりフォトリソマスク処理が2週間から1晩までに短縮し、歩留り改善と生産省力化が臨まれる。同技術は将来の2nm(ナノメートル)基盤を見据えたものであり、同社GPU性能の飛躍的向上に貢献する事を見込んでいる。

NVIDIA製GPU専用のAPIであるCUDAのダウンロード回数が、直近2年半で4千万回に到達したと発表される。生成AIを背景にGPU需要が急増していることが伺える。

#### How do we view this?

2022/1月期2Q(5-7月)の会社計画は、売上高が110億USD±2%と中央値で前年同期比69%増、粗利益率が68.6%±0.5%で同3.6ポイント改善見通しである。データセンターGPUでは半導体産業向けにcuLithoのライブラリー公開、Amazon、Google、MicrosoftのクラウドサービスにNVIDIA H100 テンソルコアGPU 提供拡大を予定。生成AIでは新製品であるL4テンソルコアGPUをグーグルへ提供予定。中国EV最大手であるBYDが車載SoCであるOrinの搭載数を拡大していくと発表するなど、AIやハイパフォーマンスコンピューティング(HPC)用途のGPUが拡大する見込み。

AI開発の主流APIであるCUDAがNvidia製に限定されるベンダーロックインの存在により、汎用GPUはNVIDIA製が今後も主流となると予想される。開発者を支える豊富なライブラリ上のリソースや、技術進歩による高性能品への需要が、同社の飛躍的な株価成長を支えるだろう。

#### 業績推移

※参考レート 1USD=144.48円

事業年度	FY2020/1	FY2021/1	FY2022/1	FY2023/1	1Q(2-4)2024
売上高(百万USD)	10,918	16,675	26,914	26,974	7,192
営業利益(百万USD)	2,846	4,532	10,041	4,224	2,140
当期利益(百万USD)	2,796	4,332	9,752	4,368	2,043
希薄化後EPS(USD)	0.28	1.73	3.85	1.74	0.82
BPS(USD)	4.99	6.81	10.62	8.96	--
ROE(期初BPSベース)	7%	35%	57%	16%	--
配当(USD)	0.16	0.16	0.16	0.16	--

(出所: Bloomberg、企業公表値をもとにフィリップ証券作成)

終値(USD) **411.17** 2023/6/28  
PER **199.60**

#### 会社概要

1993年設立の半導体ベンダー。画像処理用チップであるGPU(Graphic Processing Unit)の設計・開発・販売を行う。

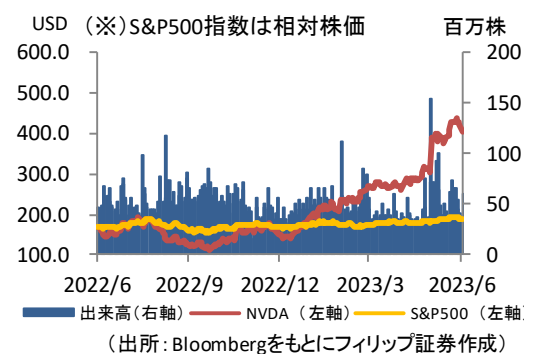
NVIDIA製GPUを多目的用途に用いるためのAPIおよびドライバーツールであるCUDAを2007年にリリース。GPUを暗号解読、機械学習や深層学習などの並列処理に用いる汎用GPU(General Purpose GPU)のパイオニアとなる。

現在の主要製品セグメントは①データセンターGPU、②ゲーミングPC用、③プロユース画像処理GPU、④車載用チップ・自動車産業向け製品・システムである。

データセンターGPUはH100テンソルコアGPUが主力、ゲーム用途やプロユースの画像処理としてはRTXやGeForceシリーズをリリース。車載・自動車産業向けには、コネクテッドカー用のデータセンターGPU他、自律走行用途のシステム組み込みチップOrinをリリース。マルチバース上での工場生産シミュレーション開発も行う。

#### 企業データ(2023/6/28)

ベータ値	1.70
時価総額(百万USD)	1,015,590
企業価値=EV(百万USD)	1,012,350
3か月平均売買代金(百万USD)	15,844.6



#### 利益還元推移

	FY20	FY21	FY22	FY23
配当総額	390	395	399	398
自社株買い	7,080	7,080	7,080	10,040
還元総額	7,470	7,475	7,479	10,438

(出所: 企業公表値をもとにフィリップ証券作成)

#### リサーチ部

三角 友幸  
tomoyuki.misumi@phillip.co.jp  
+81 3 3666 0707

笹木 和弘  
kazuhiko.sasaki@phillip.co.jp  
+81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元：フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者：フィリップ証券リサーチ部 三角 友幸

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平 14.1.25」に基づく告知事項>

- ・ 本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。